

資料4 エラーチェック一覧表

ページ	44					49					49				
	実習問題2 ハートファイバー文経類 (条件の判定)					実習問題1 日本史の年表 (ページの準備)					実習問題2 売上金額の表示 (ページの準備)				
番号	氏名	演習	コンパイル	実行	備考	演習	コンパイル	実行	備考	演習	コンパイル	実行	備考		
1	赤川 智恵	OK	OK	OK	条件の判定が できていない	OK	OK	OK	DATAの入れ方	OK	OK	OK	READ文の処理 ができていない		
2	藤田 真子	OK	OK	OK	条件の判定が できていない	OK	OK	OK	理解が深まった	OK	OK	OK	フォーマットの組み 立て		
11	加藤田 裕子	OK	OK	OK	条件の判定が できていない	OK	OK	OK	理解が深まった	OK	OK	OK	理解が深まった		
12	片岡 悦子	OK	OK	OK	条件の判定が できていない	OK	OK	OK	READ文の入れ方	OK	OK	OK	READ文の入れ方 ができていない		

の実習日誌により実習を行い、実習問題へと進む。
イ、作成されたフローチャート、コードデバッグ、出力結果について、資料4エラーチェック一覧表を用

いて個人の手まじりを記入する。ウ、速くできた生徒には、上位レベルの演習題を与える。
エ、巡回による個別指導を中心とする。
オ、三年生プログラミング基礎
ア、総合実践の株式会社(四人一組)のグループによるソフトの開発を、情報処理検定試験三級取得者リーダーとして行わせる。
イ、開発プログラムは、当座預金出納帳、売上帳、仕入帳、商品有高帳、売掛金元帳、買掛金元帳、給料計算書とする。
四、研究のまとめ
改善策を導入した二年生のプログラミング基礎では、資料5のアンケート結果や調査結果から、興味・関心をもって学習し、他の研究対象科目である「タイプライティング」では多数の生徒がワープロ検定に合格(資料6)するなど成績の向上が認められた。また、演習問題を数題用意しておくため、生徒の学習進度の調節が可能になり、同時に放課後の情報処理室の利用者が増加した。
つまじりの多い箇所は、フローチャートの作成にあり、問題の分析ができないことに原因がある(資料5の1の(2))。これは普通教科の基礎、基本の理解力とも大きな関連があり、生徒たちの一層の基礎学力向上が望まれる。
三年生のプログラミング基礎は、総合実践で活用するプログラム開発を優先させたため、進度が少し速く理解で

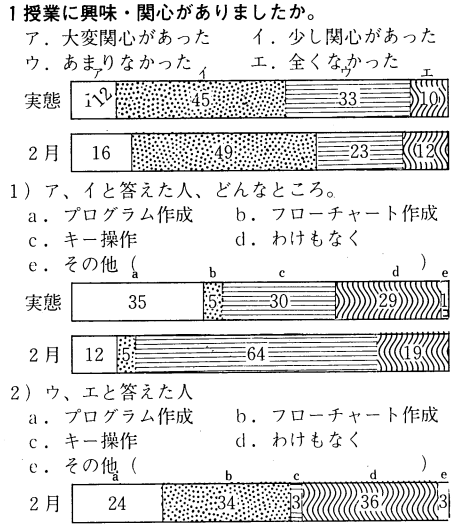
いて個人の手まじりを記入する。ウ、速くできた生徒には、上位レベルの演習題を与える。
エ、巡回による個別指導を中心とする。
オ、三年生プログラミング基礎
ア、総合実践の株式会社(四人一組)のグループによるソフトの開発を、情報処理検定試験三級取得者リーダーとして行わせる。
イ、開発プログラムは、当座預金出納帳、売上帳、仕入帳、商品有高帳、売掛金元帳、買掛金元帳、給料計算書とする。
四、研究のまとめ
改善策を導入した二年生のプログラミング基礎では、資料5のアンケート結果や調査結果から、興味・関心をもって学習し、他の研究対象科目である「タイプライティング」では多数の生徒がワープロ検定に合格(資料6)するなど成績の向上が認められた。また、演習問題を数題用意しておくため、生徒の学習進度の調節が可能になり、同時に放課後の情報処理室の利用者が増加した。
つまじりの多い箇所は、フローチャートの作成にあり、問題の分析ができないことに原因がある(資料5の1の(2))。これは普通教科の基礎、基本の理解力とも大きな関連があり、生徒たちの一層の基礎学力向上が望まれる。
三年生のプログラミング基礎は、総合実践で活用するプログラム開発を優先させたため、進度が少し速く理解で

いて個人の手まじりを記入する。ウ、速くできた生徒には、上位レベルの演習題を与える。
エ、巡回による個別指導を中心とする。
オ、三年生プログラミング基礎
ア、総合実践の株式会社(四人一組)のグループによるソフトの開発を、情報処理検定試験三級取得者リーダーとして行わせる。
イ、開発プログラムは、当座預金出納帳、売上帳、仕入帳、商品有高帳、売掛金元帳、買掛金元帳、給料計算書とする。
四、研究のまとめ
改善策を導入した二年生のプログラミング基礎では、資料5のアンケート結果や調査結果から、興味・関心をもって学習し、他の研究対象科目である「タイプライティング」では多数の生徒がワープロ検定に合格(資料6)するなど成績の向上が認められた。また、演習問題を数題用意しておくため、生徒の学習進度の調節が可能になり、同時に放課後の情報処理室の利用者が増加した。
つまじりの多い箇所は、フローチャートの作成にあり、問題の分析ができないことに原因がある(資料5の1の(2))。これは普通教科の基礎、基本の理解力とも大きな関連があり、生徒たちの一層の基礎学力向上が望まれる。
三年生のプログラミング基礎は、総合実践で活用するプログラム開発を優先させたため、進度が少し速く理解で

きなかつた生徒が増加した。そのための興味・関心度は少々下がったが、逆にグループのリーダーたちは難易度の高い課題を解く意欲が高まった。総合実践で自分たちが開発したプログラムを活用できるようになった事は、生徒た

資料5 研究実践に関する意識調査

実態調査と昭和62年2月のアンケートとの比較を示すと次のようになる。



*興味・関心度は、少し関心があったという質問まで含めると、57%から65%に上昇を示した。これはパソコンの利用の状況が拡大した結果であろう。

*キー操作をすることと答えた生徒が30%から64%に増えている。これは練習問題には解答がありそれをキーインすればプログラムが実行して結果が出て来るからと思われる。その反面、フローチャート作成やプログラム作成に全体の90%の生徒が興味を示していない。

にとつて大きな喜びであり自信にもなるであろう。このような意欲を高めるため、学習内容の一層の精選とパソコン学習の一年生からの導入及び単位増も含めたカリキュラムの改善策を現在考慮中である。

資料6 ワープロ検定(全商主催)

年度	4 級		3 級 終	
	申込者	合格者	申込者	合格者
61年度	2名	2名	なし	—
62年度	73名	52名	5名	2名

*受検申込者、合格者とも飛躍的に伸びた。